

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 2月 1日

事業所名 ヴィストカレッジ金沢駅前

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○		・個別ワーク等、少人数療育を実施している。 ・運動ワーク等では、活動内容に適した訓練室の確保、あるいは事業所外での活動を計画している。	
	2 職員の配置数は適切である		○			・受付にスタッフが待機できるよう2022年4月以降人員を増やす予定。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○			・入口までは階段があるため、配慮が必要な利用者さんが通所される場合は、スタッフが1階で出迎えるなど配慮していく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			・毎月出勤スタッフ全員で業務改善のためのミーティングを実施している。	・活動プログラムに対して毎回振り返りを実施できる仕組みを作る予定。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○				
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○				
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		・外部評価を実施し、より良いサービス提供につなげる。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			・月に2回程度、障害特性や支援法についての勉強会、事例検討を実施している。 ・年に1回外部の指導者よりアセスメント等の研修を受けている。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○				
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			・事業所単位のアセスメントシートを使用している。 ・必要に応じてTTAP,K-ABC II の検査を実施し支援に反映させている。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			・各スタッフの強みを生かした活動プログラムを作成し、児童発達支援管理責任者が取りまとめている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			・毎月、新たな活動プログラムをスタッフから募集している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○			
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○				
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			・支援のねらいや目的、時間配分を記入したタイムスケジュールを作成し、スタッフ間で共有している。	・特に個別ワークでは、新しい活動を組み込んだ際には記録に詳細に記載し、スムーズに支援を繋げていくことができるようにする。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			・翌朝の朝礼にて利用者の情報共有を実施している。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○				
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			・6ヶ月に1回のモニタリング実施している。 ・ニーズの変化に合わせ、計画の見直しを適宜行っている。	
関係機関や保護者との連携	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○				
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている		○		・必要に応じて関係機関連携を行っている。	

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			○		・受入体制がない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている			○		・新小学校1年生が利用する際には、就学前の関係機関との連携を実施していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			○		・連携会議に参加し、基本的にはすべての卒業児童に対し「自分説明書」を用いて情報提供できる体制を整える。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○				・適宜研修に参加し伝達研修を行っている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している			○		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				・月に1回、1ヶ月の支援の様子を文章でフィードバックしている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			○		・2022年度に発達障害者支援センターと連携し、ペアレントメンターの会を開催予定。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○				・コロナ禍で定期的な保護者会の開催が難しくなっている。状況をみながら定期的に開催していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○				
	35	個人情報に十分注意している	○				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				・言葉での表出が難しい児童がPECSを使用している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○		・地域の企業にご協力いただき、職場見学や仕事体験を実施している。 ・アート展を開催し、地域住民を招待する予定。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している			○		・策定してあるマニュアルを保護者の方へ周知していく予定。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○				
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○				
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載して	○				
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○				・利用開始時に保護者に提出いただく書類にて食物アレルギーの有無を確認している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○				・システム上で全スタッフがヒヤリハットを閲覧できるようにしている。 ・週に1回、朝礼にて事例を確認している。